

幼稚園教育実習事前事後指導

科目のねらい

本科目は、保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、こどもや家庭及び地域について理解し保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）ための、総合的な科目である。

| | |
|---------|--------------|
| 担当教員 | 長谷川・堺 |
| 授業形態 | 演習 |
| 学期 | 通年 |
| 必修・選択の別 | 必修 |
| 対象学生 | こども保育コース1、2年 |
| 時間数 | 90分×15回 |
| 単位数 | 1 |

授業の概要

- ・実習の意義を理解し、心構えを養うと共に、実習に向けての自己課題を明確にする。
- ・実習に必要な保育の知識、技術を学び、実践できる力を身につける。
- ・実習後は、実習からみえてきた今後の課題を明確にする。

到達目標

- (1) 実習前は、幼稚園教育実習、それぞれの目的、内容に合わせ、教員の役割や職業倫理、保育の観察、記録、計画などについて理解する。
- (2) 実習後は、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の課題を明確にできる。

実習の事前指導と事後指導を行う。

各回の内容

1. 教育実習の意義、目的

2. 実習生としての態度、心構え

3. 保育現場の現状と保育者の役割

4. 観察、参加実習の意義、目的

5. 幼児理解の視点と適切な支援

6. 日誌を記録する意味とその重要性

7. 日誌の書き方

8. 教材の吟味と環境構成の在り方

9. 部分、責任実習の意義、目的

10. 指導計画の重要性とその作成

11. 指導案の作成

12. 実習への課題の確認

13. 実習体験の共有化と発表

14. 評価に基づく個別指導

15. 自己課題への今後の取り組みの整理

16. 上記の内容を、幼稚園教育実習、の事前、事後に行っていく。

幼稚園教育実習事前事後指導

準備学習（予習・復習等）

- ・日誌や指導案作成、教材研究など、実習で必要と思われる準備を、授業時間外においても各自進める。
- ・教科書や、配布資料をよく読む。
- ・実習事前訪問（オリエンテーション）で指示があった場合は、その内容に合わせて準備をする。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・指導案作成や教材研究、実習の振り返り等、対話する場を設ける。

評価方法

課題レポート50%（返却は、掲示等で連絡する）、振り返り30%（授業内で返却）、提出物20%（指導案や教材等、授業内で返却）

教科書

「幼稚園教育実習の手引き」（本学作成のもの）、「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）、「幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド」（小櫃智子ら編著、わかば社）、「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」（小櫃智子ら編著、わかば社）

参考文献

その都度紹介する。

幼稚園教育実習

科目のねらい

保育者として求められる専門的知識・技術を修得する（DP1）、子どもや家庭及び地域について理解し、保育実践から学ぶ姿勢を身につける（DP2）、保育に必要なコミュニケーション力を身につける（DP3）、保育者として協働する必要性を理解する（DP4）、「子どもの最善の利益」を考え続ける態度を身につける（DP5）のための、総合的な科目（実習）である。

| | |
|---------|-------------------|
| 担当教員 | 長谷川・坂本・狩野・堺・奥田・山下 |
| 授業形態 | 実習 |
| 学期 | 1年後期 |
| 必修・選択の別 | 必修 |
| 対象学生 | こども保育コース1年 |
| 時間数 | 5日間 |
| 単位数 | 1 |

授業の概要

- ・本実習は、2年間の実習の最初の段階として位置づけられる。
- ・現場における保育の実際を観察し、保育に参加することによって、幼稚園生活の1日の流れを知る、一人ひとりの子どもの発達や、クラス集団としての子どもを理解する、幼稚園教諭の職務内容や役割を把握するなどの内容を、体験的に学ぶ。

到達目標

観察実習

- (1) 幼稚園の物的・人的環境について把握できる。
- (2) 1日の保育の流れを知る。
- (3) 幼稚園教諭の役割や、仕事を理解する。
- (4) 子どもの園生活の実態を知る。

参加実習

- (1) 1日の保育の流れ、幼稚園教諭の職務内容を具体的に体験する。
- (2) 子どもとの積極的な遊びやかかわりあいを通し、幼児の実態に触れて理解する。

各回の内容

1. 園の設備、教員組織、環境構成及びクラス構成を知る。
2. 子どもと関わりながら、園の1日の流れを把握する。
3. 各場面における保育者の子どもとの関わり方や、援助の仕方を知る。
4. 実習担当教諭の指示、指導に従い、保育に参加しながら、幼稚園教諭の役割を学ぶ。
5. 園児の生活実態や、幼稚園教育の基本を理解する。
6. 子どもの名前を覚え、積極的に関わり、ありのまま子どもの姿を知る。
7. 一人ひとりの発達を踏まえ、健康・安全のための環境・整備の実際を学ぶ。
8. 基本的な生活習慣や、社会的習慣の指導について、幼稚園教諭としての態度や技術を習得する。
9. クラス集団としての、子どもを理解する。
10. 家庭・地域社会と幼稚園との関わりについて知る。
11. 5日間、上記のような内容で教育実習を行う。詳細は、実習園によって異なる。

幼稚園教育実習

準備学習（予習・復習等）

- ・今までの授業の内容や資料等をよく読む。
- ・実習の意義、目的、内容をしっかりと理解しておく。
- ・健康管理に留意し、体調を整えておく。
- ・実習日誌の書き方について、授業外においても自主的に学ぶ。
- ・実習事前訪問（オリエンテーション）で指示があった場合は、その内容に合った準備を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・保育現場において実践的に学ぶ。

評価方法

実習先の評価70%（評価票を基に、個人面談を行う）、実習日誌の記録内容や実習時の様子等30%（記録内容やその他の実習の様子については、必要に応じて実習後に個別指導したり、全体に指導が必要な内容については、授業内で周知したりする。）

教科書

- 1・「幼稚園教育実習の手引き」、本学作成のもの
- 2・「幼稚園教育要領解説」、文部科学省、フレーベル館

参考文献

その都度紹介する。